

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	ウチの図書館お宝紹介!(第154回)茨城大学図書館の「菅文庫」を含む貴重書コレクション
Author(s)	木戸, 之都子; 松土, 真由美
Citation	図書館雑誌, 109(12): 796-797
Issue Date	2015-12
URL	http://hdl.handle.net/10109/13217
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

ウチの図書館 お宝紹介！

茨城大学図書館の 「菅文庫」を含む貴重書コレクション 木戸之都子 松土真由美

はじめに

茨城大学図書館は、本館（水戸キャンパス）、工
学部分館（日立キャンパス）、農学部分館（阿見
キャンパス）の3館からなり、本学における学術情
報の基地として、図書館の閲覧・貸出に加えて、電
子情報資源の提供、機関連りポジトリの構築、教
育支援活動、所蔵史料の展示などを行っていま

す。現在、蔵書数約100万冊、研究・教育のサポ一
ト、学生サービスの充実や、地方大学の特色を生か
して地域に開かれた図書館を目指す。この「大日本史」の
編纂をはじめ多くの文化事業を興した水戸藩第2
代藩主徳川光圀や第9代藩主斉昭が創設した弘道水
戸藩は尊皇攘夷の先鋒として幕末、諸藩に大
きな影響を与え、そのよき事例もあり、本学は設立当初から旧
制水戸高等学校の蔵書をはじめ寄贈資料の中に貴
重書を数多く所蔵しています。

『菅文庫について』

本学図書館の代表的な貴重書として菅文庫があ
ります。1951（昭和26）年、当時の大学設立期成会
が菅家より購入し、本学に寄贈されたもので菅政
友の蒐集した蔵書です。本館は国書約3500部、
8000冊、漢籍約500部、2000冊を所蔵していま
す。本文庫は1973（昭和48）年、書誌学者故長沢規
矩也博士が整理、解題を進められ、翌1974（昭和
49）年『茨城大学所蔵菅文庫漢籍分類目録』を刊行。
その後、茨城大学の関係教員の努力によって
1979（昭和54）年より分類作業が始められ、
1981（昭和56）年に『茨城大学附属図書館蔵菅文庫
国書目録』、1982年に『茨城大学附属図書館蔵菅
文庫（国書）書名索引』が刊行されました。

菅政友について

菅政友（かんまさすけ）は幕末・明治期の歴史家。1824（文政7）年水戸藩の一医家に生まれ、会沢正志斎、豊田天功、藤田東湖らの門下で、1958（安政5）年彰考館館員となり、「大日本史」の編纂に従事しました。明治維新後は神官となり、その後、修史館に勤務。のち帝国大学で修史事業に携わりました。1890（明治23）年、職を辞して水戸に隠棲、1897（明治30）年、74歳で没しました。主な論著は『菅政友全集』（1965年刊）全1巻に収められています。

「菅文庫」の内容

文庫の特徴としては、水戸ないし常陸と関係はた地域に限らず、菅政友の専門とす史学・経・漢のちろん、国文学・文学・儒学・地誌・法制・和・このでらるる理学・医学等、全分野にわたっており、この味古刊書と貴重な写本類で構成され、菅政友の興じす。膨大な蔵書から幕末の知識人への情熱をこめ、あらかゆる分野の研究者からの閲覧に供しています。主なものとして、「元和版下学集」（室町時代には最初のもの）、「和蘭文典成句篇対

訳」、[官板]バタビヤ新聞」「官板海外新聞別集」（日本で初めて翻訳された外国新聞）、「嵯峨本伊勢物語」、「享保名君記」、「天明大政録」（写本）、「反汗秘録」、「義人遺事」（写本）、「史館事記」（1828（文政11）年写



元和版下学集

本川口長孺著)、「日本政記賛(やぶ)」、「本朝」異国船関係の史料「諸夷大津上陸記事(イギリス人上陸)(会沢正志斎著)」(写本)・「薩英応接対話筆記」(写本、生麦事件処理関係)・「下港魯使応接筆記」(1793(寛政)5年、1854(嘉永7)年)。など数点。浮世絵「男色木芽漬」などがあげられます。「漢書」、古活字本「大唐西域記」、「孔子通記」など書誌学上貴重な資料が数多くあります。また、菅文庫の目録と江戸後期の史書を中心に画像データベース化(一部)したものが2001(平成13)年より茨城大学図書館ホームページで公開されています。



「嵯峨本伊勢物語」挿絵 118 段

菅文庫目録

<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/kyodo/contents.html#kanbunko>

画像データ

<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/Inetpub/kan-db/Default.html>

その他の貴重書コレクション

菅文庫のほかにも常陸国や水戸藩に関する貴重な古文書や古典籍を所蔵しています。村方文書「鶴田家文書」の中に「文禄太閤検地帳」(石田三成が総奉行)があります。また、現存する写本として信頼性が高いものとされている「常陸国風土記」、1809(文化6)年の水戸藩郡奉行が作成した御用留、日本で最初の女性教師になった黒澤止幾子に関する文書群3,000点や永井路群子氏より寄贈された富士講・不二道関係文書群100点があります。水戸城下町方の幕末の日記や御用留「大高氏記録」の写本76冊(原本は東京大学史料編纂所所蔵)には毎日の気温が記されたり、故吉村昭氏は「桜田門外の変」、「天狗争乱」

執筆の折に幕末の水戸の気象状況の調査のため何度か当館を訪れこの日記を利用しました。これらは、HPの貴重資料電子展示室で、目録および画像データの一部を公開しています。



茨城大学図書館貴重資料電子展示室

<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/kyodo/index.html>

おわりに

2014(平成26)年4月にリニューアルした本館では、菅文庫をはじめとする貴重書コレクション室を適切に保存、管理する貴重資料室と授業の教室として利用できる貴重資料実習室を新設しました。今後により多くの研究者に資料を活用していただくために画像データの作成と情報発信を推進して参ります。

参考資料：『昭和56年度特定研究「茨城大学附属図書館蔵菅文庫の総合調査」報告書』(1981年、茨城大学教育学部国文学研究室発行)
(きどしずこ：茨城大学人文学部)
(まつどまゆみ：茨城大学図書館)